

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 4月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4770900258
法人名	社会福祉法人 松籟会
事業所名	かりゆしぬ村グループホームくつろぎ
所在地	〒905-0006 沖縄県名護市字茂佐1705-8 (電話) 0980-51-0070

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成21年4月2日

## 【情報提供票より】(H21年 2月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 30 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	共益費 10,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低 67 歳	最高 98 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	北部地区医師会病院・かじまクリニック・北部病院・なごみ医院・こうげん歯科
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは市の新興地区の小高い地に立ち、自然・安心・人とが懐かしい距離で暮らすことのできる、まさに「くつろぎ」のホームである。母体法人の協力体制のもと、防災訓練、医療連携、OJT制度、認知症に関する研修会が活発であり、良好な職場環境からくる安心感は利用者によりフィードバックされ、人材や生活支援の一層の充実につながっている。利用者により穏やかな笑顔があり、浴室と便所がついた各居室は自分の家として醸し出され、利用者は気軽に部屋を出入りし思いのまま過ごしている。ぬくもりあるホームで利用者は本来の優しさを発揮し、職員は向上心に溢れ、お互いを尊敬しあいながら切磋琢磨して利用者のために励んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を踏まえて、法人と共に改善計画を立て、全員で話し合い検討し改善に向けて取り組んだ。8点あげられた改善項目は、取り組みの具体策を模索し、計画行動した結果、多くが改善につなげることができた。自己評価の意義と目的が更に深く理解できるようになった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、各自で取り組みを行い、その後職員全体で話し合い自己評価をした。一緒に行くことで職員一人ひとりの意識が高まった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>委員は民生委員、区長、行政、主治医、家族、管理者から構成されている。メンバーである主治医からは、医療的な助言や話し合い、流行の病に対する知識や予防などを聞くことができ、意見交換が行われている。今後は参加者それぞれの意見が活発に交わされるよう人脈を活かした情報収集をしてホームに活用していきたいと考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱設置により、書面での苦情を随時受け付けており、口頭での苦情、要望はその都度対応しサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。家族の意見や苦情はまだ聞かれないが、入居者の様子に変化を感じたとき職員と家族で意見等を聞き、話し合っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>デイサービスの行事参加及び見学を行い地域住民と交流を図っている。散歩時に交わす挨拶、近所のファーストフード店で展開される日常的コミュニケーションは地域と良いお付き合いをさせてもらっている。自治会へはホーム側から積極的に出向き、地域の一人として仲間入りさせて貰える様さらに働きかけたい。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしさの生活」と自立支援・尊厳を基本とした独自の理念を作り上げた。その人らしさの生活を支えるために必要な地域との関係性を理念の中に包含させ、ホーム全体として質の確保に取り組む上での根本的な指針となるよう作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を事業所内に掲示し、申送り時に唱和している。全職員は理念をカードにして携帯し業務に就いている。実践の中心に位置づけている理念は利用者の日々の支援に、どう活かすか常に立ち返る原点として確認しながら業務に就いている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	デイサービスの行事参加及び見学を行い地域住民と交流を図っている。散歩時に交わす挨拶、近所のファーストフード店で展開される日常的コミュニケーションは地域と良いお付き合いをさせてもらっている。自治会へは、ホーム側から積極的に出向き、地域の一員として仲間入りさせて貰える様さらに働きかけていく意向である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を踏まえて、法人と共に改善計画を立て、全員で話し合い検討し改善に向けて取り組んだ。8点あげられた改善項目は、取り組みの具体性を模索し計画行動した結果、多くが改善に繋げることができた。自己評価の意義と目的が更に深く理解できるようになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員は民生委員、区長、行政、主治医、家族、管理者で構成されている。メンバーである主治医からは、医療的な助言や話し合い、流行の病に対する知識や予防などを聞くことが出来、意見交換が行われている。今後は参加者それぞれの意見が活発に交わされるよう人脈を活かした情報収集をしてホームに活用していきたいと考えている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	出来る限り市へ出向き、担当職員に相談を行っている。お互いの行事の行き来は活発である。推進会議メンバーでもある市担当者からは入居希望者の調整・空き施設・紹介などの情報を貰ったり、当法人の認知症ケアに関する講習会への参加など勉強会にお誘いして積極的に関わっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に日々の生活状況、健康状態を伝えている。心身の変化があった場合は電話にて報告説明し常に相談を行っている。また日用品の調達時や費用支払日には確実に訪問してもらっている。遠方家族には病院受診日に付き添って貰い家族の絆が深まるような配慮をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置により、書面での苦情を随時受付しており、口頭での苦情、要望はその都度対応しサービスの質の向上に向けた取組をしている。家族の意見や苦情はまだ聞かれないが、入居者の様子に変化を感じたとき職員と家族で意見等を聞き、話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は法人で行っているが、認知症という専門性の高いケアに配慮した上での異動となっている。異動によるダメージを少なくする取り組みとしてパトタッチの期間を新旧重ね、職場や利用者とのゆるやかな関係を作りながら進める。やむを得ない離職の場合も引継ぎの期間を十分にとるようにし利用者、家族から安心と信頼が得られるよう最善を尽くしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修等に積極的に参加でき、研修報告会も行っている。法人内研修は職員が公平に参加できるよう日を違えて2回行われる。管理者は職員の資格取得に協力的であり、個々に将来の希望を聞いて応援している。法人内で採用しているOJT制度は確実に効果をあげており、職場での実務を通じて行う職員同士の介護技能や理論、価値感、達成感が共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修会や、計画作成者会議等での情報交換や親睦会の活動を通して、職員同士の質の向上に取り組んでいる。他事業所、名護市、地域への声かけを行い、法人の作った認知症学習会「ガウディ会」を月1回行なっている。今後はキャラバンメイトでも活動し、地域で認知症サポーターを増やし、同業者とのネットワーク作りにも力を入れて行ないたいと考えている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら見学に来てもらったり、管理者が出向いて本人の意向を聴いたりする等、本人が安心してまで十分に話し合っている。また入居間もないときは、馴染めるまで職員が話し相手になったり、家族に電話したり面会に来て貰うなど配慮している。入居者の以前の生活を把握することで、ホームが早く生活の場として受け入れてもらえるよう努力している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が全てを行うのではなく、自立を軸にしながらもお互いが共同し支えあい、睦みあって過ごしている。人生経験豊かな利用者を尊重し、過ぎた時の流れを傾聴している。男性職員が食事係のときは入居者が厨房に来て野菜切りから作り方までアドバイスしてくれる。調査当日はイナリ寿司の薄あげ詰めを利用者が丁寧に仕上げ昼の食卓を賑わした。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握が困難な場合には、その日の行動、表情、食事の様子から把握する。今日一日どのように過ごしたいかの問いかけに昼食後答えてくれる利用者もいるので、思いや意向の把握には常に応じられるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族の意向要望を聴きだし職員と一人ひとりのケアについて意見交換し、介護計画へ反映している。職員の情報を元にアセスメントを拾い行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは本人、家族、職員の情報を元に状態変化に合わせてケアの検討をおこなっている。担当制を実施しているので連絡メモや業務日誌などの詳細な記録を個別記録として整理し、それらをケアマネが確認しながら介護計画の作成に取り組んでいる。見直しは定期的に行なっており、変化があった時は随時見直しをしている。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況により、病院受診時の送迎、付き添い、外出泊時の送迎などの支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、協力医療機関はあるが、本人や家族が別の病院を希望する場合は、主治医と連携をとりながら受診を支援したり、病院へ同行する際は利用者の情報を整理し口頭で伝えている。そのほかホームには主治医の訪問診療が週1回あるのでその機会に利用者の検診を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ看取り経験はないが、主治医・家族・職員を交えて事前に話し合いを行い、終末期のあり方に付いて全職員で方針を共有して確認している。地域ケアの最終ステージをその人らしく過ごしてもらう為にもマニュアルの作成、同意書の確認、連絡体制など看取り支援の指針を更に学習していきたいと考えている。	○	終末期ケアは地域密着の最終着地点としてこれからますます重要な位置づけとなる。その人らしく暮らし続けるといふホームの理念を再確認しながらの支援においても、刻々変化する心身の変化にどう対応するか、役割分担、家族のケア、命の倫理、到来時の心理、冷静な行動、安らかに送ってあげられるようアンケートやヒヤリングを定期的実施し、勉強会も続けて欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重しゆっくりとした会話、傾聴を心がけている。広いリビングにあっても個人ケアに関する会話はその人個人にささやいている。記録やメモ書きでも机の上に置きっぱなしにせず、個人情報記録は事務所奥の棚に保管してある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	喫煙希望者には拒否するのではなく、煙草時間・場所を指定して吸ってもらっている。また本の好きな方も、本人が落ち着いて過ごせる場所で楽しい時間が過ごせるような配慮が感じられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、配膳など一人ひとりの力を活かし職員と一緒に食事や後片付けをしている。食事時間は、調理係も職員も時に家族も交えて楽しいひと時となっている。多少なりとも食事に関わっているので出された食べ物や材料などから話題が出発して賑やかな食事タイムとなっている。食後の片付けも男女誰でもやれる人が率先して手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2,3回だが、個々の状態、ニーズに応じて対応し、安心感を持てるよう支援している。入浴拒否のないように心地よい入浴をしてもらうように配慮している。同性介護が基本だが出来ないときは利用者に意向を伺い、理解を得てから開始している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴をしっかりと把握してそこから導き出された役割や楽しみごとを支援している。読書、新聞読み、散歩、歌唱、洗濯干しやたたみ、畑、卓上ナフキンたたみなど自ら進んで好きなことを行う。その日の計画はあるがができる限り利用者の思いに沿い、希望を優先して支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて外出したり、馴染みのファーストフード店で一休みしながら会話を楽しんだり、また気軽に戸外へ日向ぼっこを楽しむことができるように努めている。ホーム裏手の雑草雑木を整理して散歩道をつくり、ドライブが苦手な利用者には散歩を日課としている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけず自由に出入りできるように、利用者の安全確認を常に心がけてケアに取り組んでいる。家族の訪問や飲料水の訪問販売、孫たちの訪問などいつでも気軽にドアが開けられる。リビングの掃き出しガラス戸からは外の景色がゆったり眺めることができるので閉塞感がない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施し安全の意識付け及び避難誘導など訓練を受けている。非常時には玄関前にある大きな会社や、ファーストフード店、近隣等に協力が得られるよう働きかけている。警報装置・連絡網・職員体制・消火器等を揃え近々スプリンクラーの設置予定がある。又、非常災害に限らず利用者の緊急状態に備えAEDを設置し、職員全員が使用方法の訓練を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個別の食事状態、水分補給チェック表、体重測定などにより栄養状態の把握に努めている。健康診断、栄養管理のための検査もおこなっている。水分チェック残量チェック表も記録しており、水分摂取を嫌がる利用者には果物のような代替物で工夫している。体重は全員が急激な増減が無く、健康状態の悪い利用者でもここ数ヶ月は維持されていた。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活暦の異なる利用者同士が快適に過ごす空間として、静かで穏やかな時を過ごせるようテレビラジオの音量を抑えている。リビングと平行して台所が配置され、料理の匂いや食材刻みの音が利用者を落ち着かせる。正面は手入れの行き届いた和風庭園があり、ベンチの配置やランチバイキングも出来る。畳間は多機能的に使われている。L字型に配置された居室の中央にガラス張りのパティオを設え、木々の緑の中から各部屋の様子が伺える。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は使い慣れた生活用品に囲まれ安心して過ごせる場となっている。本人の好みに合わせて居室の環境整備を家族と共にこなしている。居室には風呂とトイレがあり、大きな安心感を誘っている。ポータブルの必要が無いので独特のにおいが皆無である。ベランダに沿った竹垣を好みとしない利用者に対して居室から見える部分を伐採した。利用者中心とした支援があらゆるところに息づいている。</p>		